

# 「せたな町農業・農村振興計画」の策定に係る 農業経営者に対するアンケート結果（概要）

平成24年9月  
せたな町産業振興課

## □ 調査目的

- せたな町が抱える農業・農村の振興に関する現状や課題を把握する。
- 農業経営者の思い描く将来像や施策に対する要望などを把握する。
- 農業者に町農業・農村の現状と将来像を一緒に考えていただく。

## □ 調査方法

- 調査期間：平成24年7月9日～8月30日
- 調査方法：別紙アンケート用紙を全農家に送付し、JA又は役場に届けてもらう方式

## □ 回答数・回答率

- 回答率 33%（回答数126／送付数384）

## □ 回答結果の概要

### I 農業経営の現状（平成24年4月1日現在）

#### 1 営農形態

- 営農形態は、水田専業が32経営体（25%）、次に水田畑作野菜23（18%）、酪農専業18（14%）、水田畑作13（10%）、水田野菜14（11%）、水田畑作13（10%）と、水田を所有している農家が69%と比較的多数。

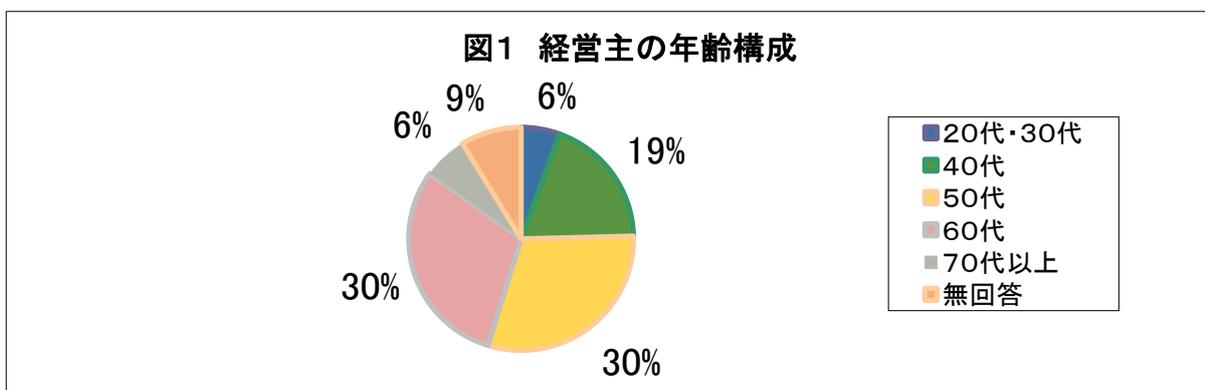
#### 2 経営形態

- 126経営体のうち、個人経営が120経営体、1戸1法人経営が3経営体で、個人・家族経営がほとんど。

#### 3 家族構成

##### (1) 経営主の年齢

- 経営主の年齢構成は、50代と60代がそれぞれ30%で、双方合わせて60%。次いで40代の19%。

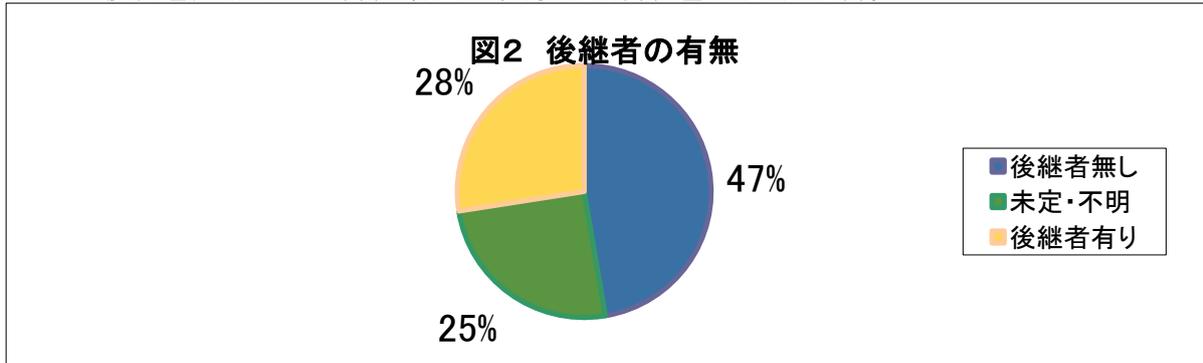


##### (2) 家族人数と農業従事者数

- 家族人数は3.7人。農業従事者数は2.7人。

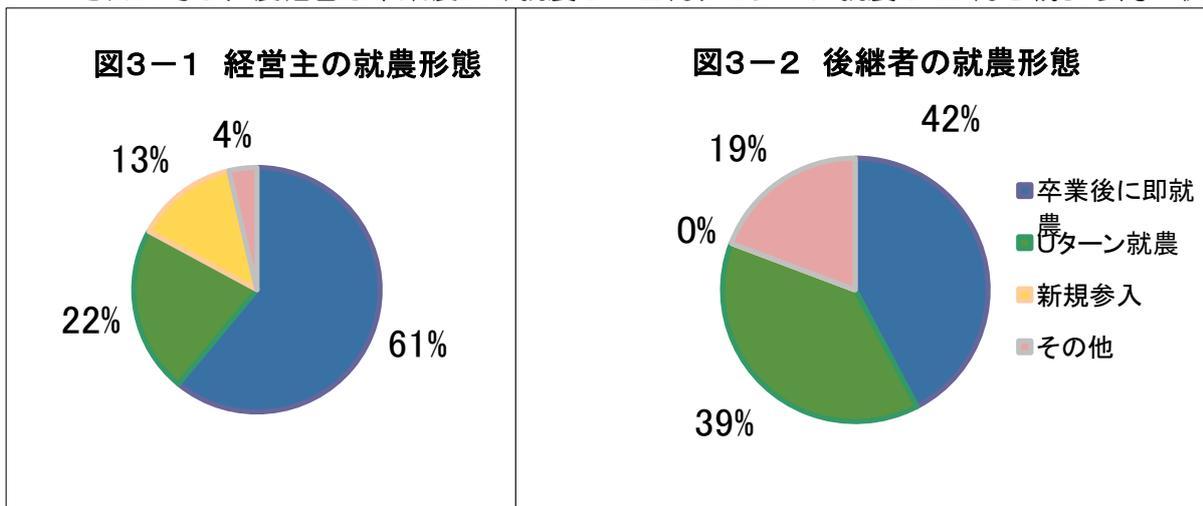
(3) 後継者の有無

- ・ 後継者無しが47%、未定・不明が25%、合わせて72%。



4 経営主及び後継者の就農形態

- ・ 経営主は、卒業後に即就農が61%、Uターン就農が22%、新規参入が13%。
- ・ それに対し、後継者は卒業後に即就農が42%、Uターン就農が39%と親より高い状況。



5 認定農業者制度

- ・ 現在認定農業者で更新を希望が72%。一方、メリット不明とする回答が9%。

6 他産業への就業の状況・意向

- ・ この1年間で、52%の経営主・家族が農業以外の他産業に就業。
- ・ 今後、農業以外の他産業への就業意向は33%。

表1 他産業への就業の状況

区分	回答数	構成比(%)
仕事をしていない	55	43.7%
仕事をした	65	51.6%
うち恒久的業務	27	—
うち自営兼業	6	—
うち出稼ぎ	3	—
うち日雇等	29	—
未回答	6	4.8%

表2 他産業への就業の意向

区分	回答数	構成比(%)
仕事をする意向はない	70	55.6%
仕事をしたい	41	32.5%
うち恒久的業務	12	—
うち自営兼業	7	—
うち出稼ぎ	2	—
うち日雇等	20	—
未回答	15	11.9%

## 7 雇用労働状況

### (1)雇用の有無

- ・ 雇用を取り入れている経営体は56経営体で、全体の44%。

### (2)雇用期間

- ・ 雇用期間は、短期（2週間未満）が40経営体、長期（2週間以上）が21経営体、短期・長期の双方雇用が11経営体。

## 8 ヘルパー

- ・ ヘルパーの平均利用日数は29日で、利用理由として病気・怪我が約半数。

表3 ヘルパーの平均利用日数

区分	平均利用日数	構成比
冠婚葬祭	4.5	15.7%
病気・怪我	15.0	52.3%
余暇・娯楽	5.5	19.2%
その他	3.7	12.9%
計	28.7	100.0%

## 9 農作業の委託の状況

- ・ 耕種（水稻）では除草・防除作業、耕種（畑作・園芸）では収穫作業、畜産では草地更新の委託が多い。

表4 各種農作業の委託作業

(単位：ha、日)

耕種（水稻）			耕種（畑作・園芸）			耕種（畑作・園芸）		
委託作業項目	委託面積	委託日数	委託作業項目	委託面積	委託日数	委託作業項目	委託面積	委託日数
育苗	6.7	15.0	育苗	-	-	牧草収穫等	1.0	1.0
移植	6.0	6.4	移植	9.5	10.0	ふん尿散布	-	-
除草・防除	16.5	2.0	除草・防除	7.1	16.5	化学肥料散布	-	-
収穫	5.3	6.5	収穫	15.3	8.3	草地更新	12.8	?

(注) 各経営種類の回答実戸数

耕種（水稻）：16戸、耕種（畑作・園芸）：9戸、畜産：4戸

## 10 農地の状況

### (1)農地の保有状況

- ・ 耕種の平均農地面積は12.3haで、うち2.6haが借地等。
- ・ 畜産（専業）の平均農地面積は31.5haで、うち9.1haが借地等。

### (2)団地数及び農地の分散状況

- ・ 団地数は、2団地以上の割合が、全体の8割以上を占めている。
- ・ 「農地の分散化が著しい」及び「分散している農地もある」と答えた経営体が64経営体で、全体の57%。

## 11 農産物(米)の生産と出荷状況

- ・ 水稻の平均作付面積は9.5ha。
- ・ 回答した経営体の米の生産量の総計は2,484トンで、そのうちJAに2,238トンを出荷（系統出荷率90%）。

## 12 家畜の飼養状況等について

- ・ 酪農では、平均総飼養頭数45頭で、生乳出荷量187トン。
- ・ 肉用牛では、平均総飼養頭数55頭で、出荷頭数25頭。

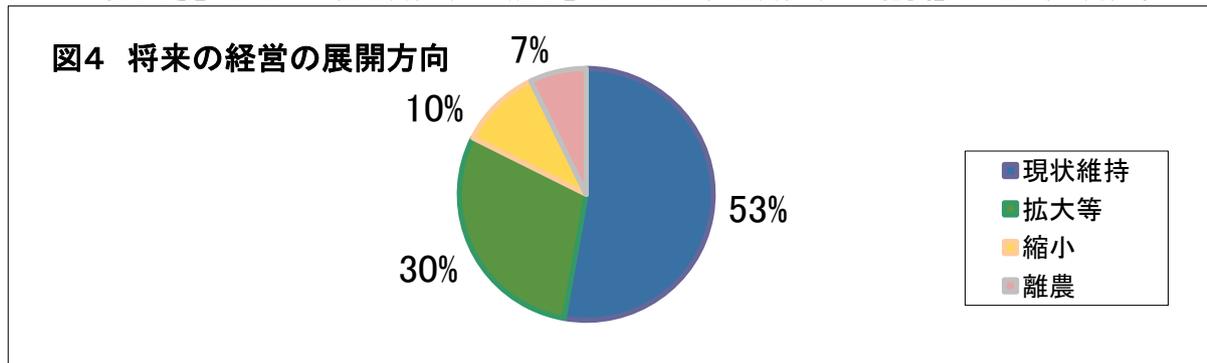
## 13 耕種農家におけるたい肥の施用

- ・ 堆肥を施用している経営体は全体の55%。
- ・ 施用しない理由は、「手間」が48%、「お金がかかる」が25%。

## Ⅱ 農業経営の将来方向

### 1 将来(概ね5年後)の経営の展開方向

- 将来の経営の展開方向は、「現状維持」が66経営体(53%)、「拡大等」が37(30%)、「縮小」が13(10%)、「離農」が9(7%)。



#### 2-1 「拡大」の具体的手法及び拡大に必要なこと

- 拡大の具体的手法は、「農地の拡大」が26経営体と一番多く、その他の手法として、「家畜飼養頭数増」10、「新部門導入」2、「法人化」5、「クリーン農業等」3、「雇用増」6、「飼養方式変更」2、「加工・6次産業化」6。
- 拡大に必要なこととして、「資金の調達」が26経営体、「施設機械(畜舎、水稻関係機械)の導入」が24と多く、「技術習得」が7。

#### 2-2 「縮小」の内容及び理由

- 「縮小」の内容として、「農地減」が4経営体、「部門廃止」が4、「家畜減」が1、「作業委託」が3。
- 縮小理由として、「高齢化」が14経営体で、全体のほとんど。

#### 2-3 「離農」の理由及び離農後の予定

- 「離農」の理由内容として、「高齢化」が8経営体、「後継者不在」が2。
- 離農後の予定として、「当該場所に住む」が9、移転が2。

### Ⅲ せたな町農業の課題と対策

#### 1 せたな町農業の課題

- もっとも回答数が多かったのは、「農業収入の向上」が77回答、次いで「農業機械の不足・老朽化」70、「農業経営費の確保」66、「労働力の確保」55、「農業施設の不足・老朽化」55と続く。

表5 せたな町農業の課題(回答数順)

順位	区分	緊急+中期的の回答数計	順位	区分	緊急+中期的の回答数計
1	農業収入の向上	77	11	営農改善のための技術導入	39
2	農業機械の不足、老朽化	70	11	加工、直売などの6次産業化	39
3	農業経営費の確保	66	13	IT・ITツツや有機農業などの推進	37
4	家族以外の労働力の確保	55	14	既存負債の償還	36
4	農業施設の不足、老朽化	55	14	農地の確保等規模拡大	36
6	生産性向上のための基盤整備	50	16	作業受委託組織等の充実	34
7	経営展開を図るための資金確保	47	17	グリーンツーリズム等都市との交流	31
8	米や生乳などの品質向上	44	18	法人化や集落営農の推進	30
9	後継者等担い手の確保	42	19	野菜等高収益作物の導入	29
10	農場周辺の環境整備	41	20	その他(※)	1

(※) 少ない所得でも豊かな経営がやれるという魅力の確保

#### 2 労働力確保の課題

- もっとも回答数が多かったのは、「短期の雇用労働力が不足」が31回答、次いで「高齢化により一人あたりの労働力低下」30、「後継者がいない」26などと続く。

表5 労働力確保の課題(回答数順、10回答以上)

区分	回答数
短期の雇用労働力が不足している	31
高齢化により一人あたりの労働力が低下している	30
後継者がいない	26
ゆとりある生活に向けて、家族の労働時間を減らしたい	20
経営規模拡大により労働力が必要	15

#### 3 後継者等担い手の確保の課題と対応

- 後継者等確保の課題として、「子供が他産業に就職」が一番多かった。
- 後継者不在の中で、今後の対応としては、「規模縮小して営農継続」が一番多かった。

表6 後継者等の確保の課題(上位5回答)

区分	回答数
子供が家業に興味を持たず、他産業に就職	22
所得が低いから	21
経営が不安定だから	20
休日が少なく、労働時間が長いから	15
子供がまだ小さいから	14

表7 後継者不在の中で今後の対応方針

区分	回答数
規模を縮小して営農を継続	28
町外の新規参入者を受け入れ	24
子供が家業を継ぐまで待つ	20
親戚や近所の農家で後継者を探	15
その他(頑張る、離農等)	6

#### 4 不足・更新が必要な農業施設・機械

表8 不足している施設・機械(上位3回答)

施設(牛舎、作業所、倉庫等) 11、トラクター4、作業機械4
--------------------------------

表9 老朽化している施設(上位5回答)

区分	回答数
作業所	15
水稻育苗ハウス	12
畜舎	10
倉庫	4
育成舎	3

表10 老朽化している機械(上位5回答)

区分	回答数
コンバイン	26
トラクター	25
乾燥機	12
田植え機	11
牧草作業機	7

5 営農改善のために必要な技術

- ・ もっとも回答数が多かったのは、「直播」が12回答、米の「低タンパク化」が9。
- ・ その他は、次のとおり様々な意見が出された（各回答1～2）。

表11 営農改善のために必要な技術等と回答数(主なもの)

水稻直播12、米の低タンパク化9、回答数2（品質向上、労働力低減、イエスクリーン、収量増、牛の飼養管理）、回答数1（経費節減、情報、稲わら活用、良食味米生産、生乳体細胞数、放牧、ET、新規作物、花の品種、調理加工法、米や麦の製粉）等

6 土地基盤整備

- ・ 土地基盤整備が必要な理由として、「排水が悪い」が一番多く、これを反映して、今後5年以内に必要な基盤整備も「排水改良」が一番多かった。

表12 基盤整備が必要な理由

区分	回答数
排水が悪い	45
区画が狭い	25
草地更新が必要	13
形状が使いにくい	11
土質が悪い	9
地力が低い	8
作業道が狭い	7
土地が急勾配	7

表13 5年以内に必要な基盤整備

区分	回答数
排水改良	52
区画の大規模化	23
客土・障害物除去	22
土壌（草地）更新	21
農道整備	13
区画形状の変更	11
整備の必要性なし	4
均平化	2

7 品質向上のために必要な取組

- ・ 品質向上のために必要な取組として、「米のタンパクの低下など食味の向上」が一番多く、次いで、「冷害対策など収量の安定」が多かった。
- ・ 他は、次のとおり回答数1。

表14 品質向上のために必要な取組

区分	回答数
米（タンパクの低下など食味の向上）	41
米（冷害対策など収量の安定）	24
（回答数1の主な意見）細菌数・体細胞数低下、牛乳ブランド化、乳成分・乳質向上、雑草対策、輪作、畑作物収量、良質な粗飼料確保、牛舎の整備、良質な餌の確保やワクチン接種による豚の出荷短縮月齢短縮	

8 米と生乳に次ぐもう一つ考えられる品目

- ・ 次の表のとおり提案があった（各提案とも回答数は1）。

表15 米・生乳に次ぐもう一つ考えられる品目

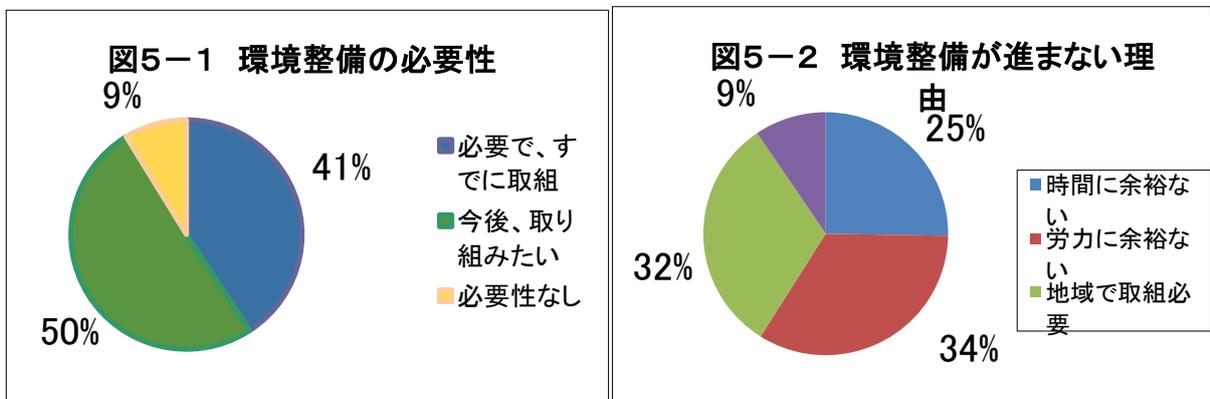
区分<（ ）内は品目に必要なこと>
肉、スナップエンドウ（栽培技術）、馬鈴しょ（面積増）、トマト（販売ルート確立）
花（技術導入、ハウス増設、売れ筋品目確立）
冬出荷野菜（越冬キャベツ、大根、ニンジン、白菜）（作り続けること、共同出荷）
※具体的な品目の提案はないが、その他の提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内には2農協あるので、協力して町でできることを考えてほしい。</li> <li>・ 農業センタの利用・試験、</li> <li>・ 販売ルート、価格安定、技術指導者</li> </ul>

### 9 農村周辺の環境整備の取組

- ・ 農場・農場周辺の環境・景観整備については、一部では取り組んでおり、その必要性について感じているものの、時間や労力等に余裕がないため、取り組んでいない状況。

表16 農場・農場周辺の環境や景観に係る取組状況

項目	選択肢	回答率 (%)
ア 農場、農場周辺の植林	植林している	28.6%
	植林していない	71.4%
イ 農場周辺の雑草	雑草を取り除き、綺麗にしている	71.4%
	農場周辺の草刈りが不十分で雑草が繁茂している	28.6%
ウ 農場の景観への配慮	花壇や芝生などにより景観に配慮している	48.4%
	景観にあまり配慮していない	51.6%
エ 不要な農業機械や車両	不要な機械などは表においていない	85.7%
	不要な機械などが置いたままになっている	14.3%
オ 農場の案内看板	案内看板を設置している	19.8%
	案内看板を設置していない	80.2%
カ 不要な施設、廃屋等	不要な施設等は撤去している	77.9%
	不要な施設等は撤去していない	22.1%
キ 施設周辺	道にぬかるみや凹凸がないようにしている	84.7%
	道にぬかるみや凹凸がある	15.3%
ク 老朽化農場内の施設	補修やペイントで景観維持に努めている	65.6%
	補修やペイントはしていない	34.4%



### 10 農村と都市との交流

- ・ 農村と都市との交流については、わずかに取り組まれてはいる（8回答(7%)）が、「時間や労力に余裕がない」（53回答(44%)）や「何をすればよいかわからない」（24回答(20%)）となっている。

表17 都市と農村交流推進に向けた各取組に対する考え (単位: %)

区分	非常に必要	どちらかといえば必要	不要
産地直売所などの「場」の拡大	26%	67%	7%
地域リーダーの育成など「人」づくり	36%	61%	2%
地域ブランドなど魅力ある「食」づくり	49%	48%	2%
せたな町の魅力の再評価、PR活動	44%	51%	4%
宿泊施設、娯楽施設の充実	19%	56%	25%
グリーン・ツーリズム関連施設の整備	17%	67%	16%
農業体験など農業への理解	25%	73%	2%
環境保全、美しい農村景観づくり	36%	59%	5%
教育、医療、介護の場として可能性を創出	33%	60%	7%
歴史的・文化的な景観や施設の保全	22%	66%	12%
その他（体験移住受け入れ、地域住民との交流	100%	0%	0%

11 加工や直売など6次産業化

- 加工や直売については、それぞれ8%、16%と一部で取り組み。
- 今後の意向としては、「取り組む予定のない」回答が多数。
- 「せたな町ふれあい市場」に農業者の出店が少ない理由としては、「忙しい・手間」が55人、「出店する品がない」が61人であった。一部で、「週一ではなく、毎日出品できるようにすべき」との意見もあった。

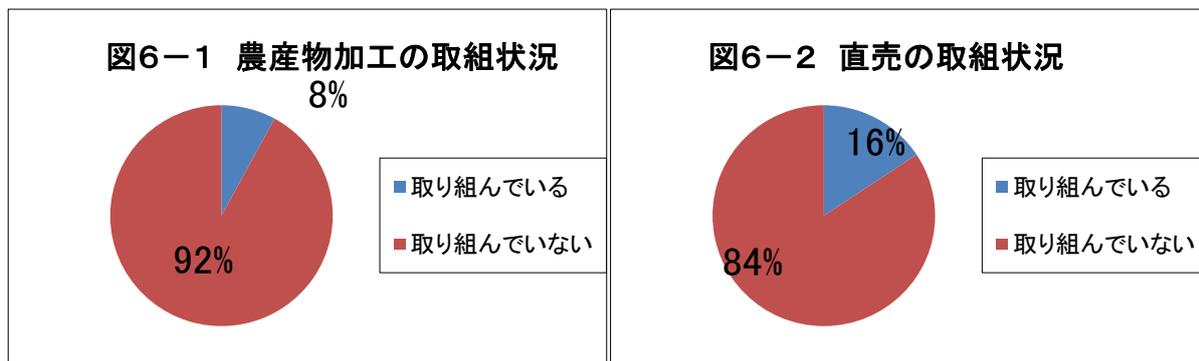


表18 加工・直売の具体的な取組内容

加工：味噌、ジャム、漬物、アイスクリーム、ヨーグルト
直売：希望者に直売、収穫体験型直売、Aコープのもぎたて市

